**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：朝鮮学校から見えた南北統一の可能性**

**お名前：　　　　　　　金　　杰**

(下記より本文をご記入ください)

皆さんこんにちは！

私は中国に生まれた朝鮮族のキンゴルといいます。

私たち朝鮮族は、中国にすんでも中国人として認められず、韓国に行っても韓国人として認められないことがおおいです。

日本に住んでいる在日コリアンと似ている立場かと思います。

私は18年前に日本に来ました。

現在、住んでいる地域に朝鮮学校が存在することを聞いてなんとか応援しようと思っていました。

2年前に次女を近くの朝鮮学校に一年間通わせることになり、関係性ができ、今なおキムチを買うことで学校を支援し続けています。

同じ民族として朝鮮学校を愛して、支援するつもりで活動をしてきましたが、

逆にいろな面で愛されてきたと思います。

今日は朝鮮学校とのかかわりから見えた南北統一の可能性についてお話しようと思います。

今、朝鮮学校は生徒がとても少ないです。

1学年に1クラスで、多くて20名です。

人数が少なく、常に同じメンバーなので、仲がすごくいいです。

生徒の国籍は、朝鮮籍が多いと思われがちですが、実際は韓国籍がおおいです。

私は小学生のサッカーを指導していたことがあり、朝鮮学校のサッカーチームにお世話になったこともあります。

サッカーの先生もすんなり協力してこちらの子供達の指導も一生懸命してくれました。

子供達の笑顔が絶えず、楽しい時間を一緒に過ごしました。

当時、妻は朝鮮学校のオモニ会の活動に参加していました。

みんな兄弟そろって学校に通い、ほとんどが知り合いで親戚みたいな関係だと妻は話していました。

父母達が学校経営を率先して助けていて、この光景も普通の学校ではなかなか見れないことです。

妻が通っている韓国語教室の先生がこの朝鮮学校で以前教員をされていましたが、

在日コリアンのつながりはとても強く、そのコミュニティに助けられたと先生がおっしゃっていたと言っていました。

子供の運動会にも参加させていただき、楽しい時間を過ごしました。

その中で驚いたのは家族と一緒に走る種目があったことです。

家族だけでなく、親戚全員で走る光景が印象的でした。

6名、9名などのグループで走り、子供が親をおんぶして走る光景がすばらしかったです。

核家族と言われる通常社会にはなかなか見られない家族の絆をみて感動しました。

朝鮮学校の行事などで統一旗をよく見かけますが、

朝鮮学校の生徒、オモニ会、親戚などに北朝鮮関係、韓国関係が自然に入っていて

朝鮮学校内には、北・南という境界はありませんでした。

南北はイデオロギー闘争で長い間分断状態ですが、

朝鮮学校とかかわって、感じたのは大部分の方はイデオロギーを気にしていないことがわかりました。

むしろ融和、共生、思いやりが多いです。

朝鮮学校とかかわりを作ることで、南北間の融合の促進と私たち家族の絆をもっと強くできると思います。

ぜひ皆さんの力を借りて一緒に南北統一のために頑張りましょう。